

## 「光の道」構想に関する意見

意見提出元	株式会社二葉通販
意見項目	意見内容
<p>1. 超高速ブロードバンド基盤の未整備エリア(約10%の世帯)における基盤整備の在り方についてどのように考えるか。</p>	
<p>2. 超高速ブロードバンドの利用率(約30%)を向上させるためには、低廉な料金で利用可能となるように、事業者間の公正競争を一層活性化することが適当と考えられるが、NTTの組織形態の在り方も含め、この点についてどのように考えるか。</p>	<p>超高速ブロードバンドの利用率を向上させること自体を目的にされていますが、大事なのは、ブロードバンドの利活用により、人々の生活が、どれくらい便利になり、どれくらい豊かになるかだと思います。ブロードバンド利活用により、人々の生活を、より便利でより豊かなものにするためには、行政サービスや医療サービス等、日常生活に密着した分野で、ブロードバンドが生活必需品になるような環境整備を進め、それを世の中に知らしめていくことこそ、国が最も優先すべき重要な課題であると考えます。</p> <p>企業や住宅に引き込まれている電話回線を100%光ファイバ回線に置き換えることで、何かが産まれる訳ではありません。ブロードバンドで実現できることが変わらなければ、光ファイバ回線に置き換えても何も変わらないと思います。それどころか、光ファイバ回線への置き換えを無理に進めようとする、かえって社会的コストが嵩むことにもなりかねません。</p> <p>例えば、私どもは、企業向けに電話機販売等を行っていますが、私どもが販売活動を行っている企業において、光ファイバ回線によるブロードバンド利用は確かに増えているものの、電話機を収容している回線自体は、まだまだ電話回線が多い状況にあります。回線部分だけでコストを比較すると、何本もの電話回線を1本の光ファイバ回線に集約することで、コストメリットが生じる場合は多いのですが、ビジネスホンに収容される電話回線を光ファイバ回線に切り替えようとする、装置を増設等するために相当規模の工事が必要になりますし、機種によっては、ビジネスホンのシステムを丸ごと変えなくてはならなくなるケースもあるため、リース契約残存期間、システム老朽化状況、切り替えタイミング次第では、光ファイバ回線に切り替えることでコスト増になるケースがあります。だからこそ、私どもでは、お客様ニーズや状況</p>

	<p>等をお伺いし、お客様にとって、より適切なタイミングで、光ファイバ回線への切り替え等を進めて頂くよう、提案させて頂いているところですが、</p> <p>「光の道」構想の議論を進めるにあたっては、通信事業者が提供する回線部分ばかりに注目するのではなく、光ファイバ回線への置き換えを進めることによって、端末機器、社会システム、通信事業者以外の事業者のビジネスモデル等に、どのような影響が生じるのかについても、慎重に見極めて頂きたいと思っております。</p>
--	--